

2022年12月 旅行取扱高状況報告

< 旅行区分別 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年度同月取扱高	前年度同月比	2019年度同月取扱高	2019年度同月比
海外旅行	9,779,091	813,259	1,202.5%	32,771,252	29.8%
国内旅行	4,861,867	3,462,458	140.4%	3,821,636	127.2%
訪日旅行	345,343	7,680	4,496.3%	2,680,549	12.9%
合 計	14,986,303	4,283,398	349.8%	39,273,438	38.2%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ5社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデートラベル、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。また、コロナ以前と比較をするため、2019年度同月比（2018年12月）を記載しております。

■ 海外旅行

HIS 年末年始の予約者数ランキングで1位となった韓国は、12月月間においても送客数を牽引いたしました。ハワイにおいては、自社主催パッケージツアーの取扱高を牽引しており、3年ぶりに再開したホノルルマラソンによるイベント参加需要や、年末の繁忙期におけるレジャー需要の回復がみられました。また、添乗員同行ツアーにおいては、ヨーロッパ方面から着々と回復し始めております。しかしながら、引き続き日本発着における国際線航空座席供給数の回復に時間を要していることもあり、未だ2019年度水準の取扱高までには至っておりません。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年度同月比1,202.5%、2019年度同月比29.8%の97億7,909万円となりました。

■ 国内旅行

「全国旅行支援」による国内旅行のマインドの高まりを受け、3ヶ月連続で2019年度同月比を上回る取扱高となりました。送客・取扱高を牽引する沖縄・北海道・九州方面は、パッケージツアーを中心に大きな伸びを示しております。

また、グループ会社であるオリオンツアーは、主力分野の本州および北海道スキー&スノーボードツアーをはじめ、日帰りバスツアーが好調に推移しており、12月単月で黒字化を達成しております。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年度同月比140.4%、2019年度同月比127.2%の48億6,186万円となりました。

■ 訪日旅行

アジア各国から、FIT・団体・インセンティブ等それぞれマーケットからの訪日再開の動きが、顕著に現れております。また、ジャパンホリデートラベルによる個人旅行者にむけた着地後のアクティビティ商材が、好調に推移しており、「北海道・旭山動物園&青地ツアー」や「世界遺産 富士山満喫ツアー」など、取扱高の積み上げに繋がっております。しかしながら、引き続き中国からの受客が戻っておらず、本格的な回復には至っておりません。

以上の結果、訪日旅行取扱高は、前年度同月比4,496.3%、2019年度同月比12.9%の3億4,534万円となりました。

2022年12月の取扱高総計は、前年度同月比349.8%、2019年度同月比38.2%の149億8,630万円となりました。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス I R室：050-1746-4188
広報室：050-1746-4177